

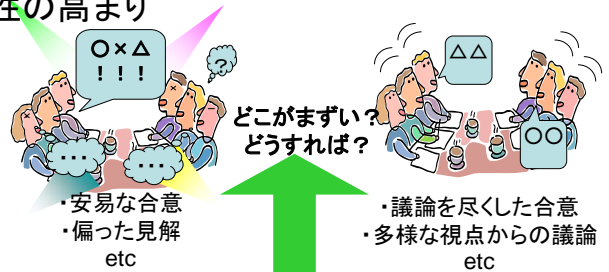
グループディスカッションの評価法と対話技術の研究

～聴く、伝える、問う力を育てるために～

●背景と目的

- 専門家と一般市民と一緒に社会的判断をするような対話の場の増加
例: 裁判員制度, 科学技術・土木政策への市民参画
- 自律的な対話力(聴く・伝える・問う力)育成の必要性の高まり

■適切な評価指標とフィードバック法の欠如・必要性



第三者に頼らない
“自律型対話力”

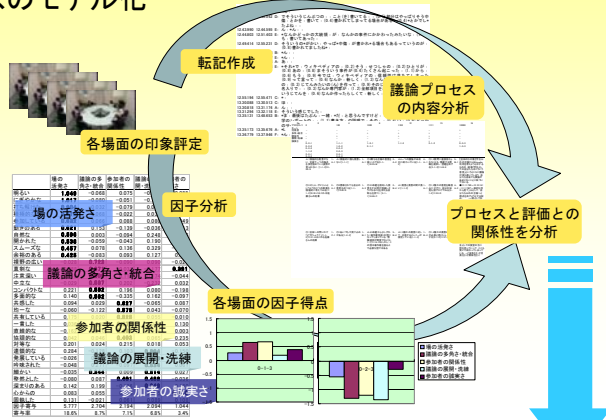
【本研究の目的】

- ★ ディスカッションの対話プロセス評価法の開発

●特徴

●自律型対話のモデル化(H19年度)

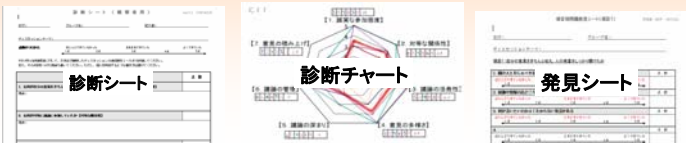
実データの分析による、グループの一員として主体的にディスカッションを進行するためのコミュニケーションプロセスのモデル化



●評価指標の作成

自律型対話モデルに基く、参加者の振る舞いレベルからディスカッションの進め方レベルまでをカバーする評価指標の作成および評価指標の教材化

【評価シート群】



●評価シート群の効果検証

評価シート群の使用効果を確認するための収録実験のデザインおよび“使用効果”を評価する測定可能な客観的指標(評価インデックス)の開発

検証収録実験のデザイン

2回のディスカッションの間に
条件A 何もしない
条件B 診断シートで自己評価
条件C 診断シートで自己評価
+ 診断チャートで評価の共有



データセット作成

音声、映像、転記テキストからなるマルチモーダルコーパス作成

評価インデックスによる項目評価

●評価対象項目
【誠実な参加態度】
【対等な関係性】
【議論の活発さ】
【意見の多様さ】
【議論の深まり】
【議論の管理】
【議論の積み上げ】

●評価インデックス
・フロア数、バランス
・同意/不同意タグ
・発話・オーバーラップ・ポーズ量
・応答ペアの充足性・整合性
・トピック数・構造
・メタ発言(議論コントロール)量
・議論ステップモデル適合度

●ワークショップ型のディスカッション実践の提案

参加者が実践と振り返りの繰り返しによって効果的にコミュニケーション上の気づきが得られるような場のデザイン

●今後の予定

- プロジェクト内外の大学での授業実践による評価
- 実践からのフィードバックによる改良
- 評価インデックスの確立および検証

<http://lssl.jp/>

プロジェクト参加研究機関

IBS, 関西学院大, 愛媛大, 芝浦工大, 大阪電通大, 東工大, 阪大